

Y02a 日本におけるアストロツーリズムの可能性についての基礎調査

縣秀彦（国立天文台）、荒井誠（電通）ほか宙ツーリズム推進協議会一同

「長野県は宇宙県」や「星取県」など、地域の星空資源を活用した観光事業や地域振興の取り組みが幾つかの自治体で始まっている。海外でもニュージーランドのデカポ湖やナミビ砂漠、ヨーロッパのアルプス山麓などでの星空観光が人気を集めている。さらに、ハワイ島はもちろんチリやカナリー諸島でも天体観測施設への来訪も含めた星空観光が盛んになりつつあるという。このような動きは天文学の発展や普及に寄与するのであろうか？

具体的な調査や地域間の関連付け等を行うために、著者らは2017年11月に14の自治体や日本公開天文台協会他と共に「宙ツーリズム推進協議会」を立ち上げ、宇宙×旅をテーマに日本における星空観光の推進を進めている（なお、「宙」には、空やSpaceも含むものとする）。2018年度の観光庁「テーマ別観光による地方誘客事業」に応募したところ、新規採択として応募27件中4件の一つとして採択された。本事業計画は3年間であり、初年度は特に星空観光に関する観光客ニーズと地域特性・課題について調査している。天文学にあまり関心の無い層へのアプローチの仕方や、国内外での成功事例の収集のほか、曇天・雨天時の対応や専門家によるガイドの効果や課題などを抽出する。また、本事業では、日本天文協議会等と協力して、公開天文台やプラネタリウム、天文学が学べる大学など多種の天文情報に簡便にアクセス可能なポータルサイト（天文情報データベース（仮称）ACCESS）を構築し2019年に公開する予定で、現在その検討が進められている。